



令和5年度

第1回東京都総合教育会議

令和5年10月12日





◆ テーマ ◆

様々な困難を抱える子供たちの
支援の充実に向けて

社会をめぐる状況

ポストコロナの転換点を迎え…

社会が本格的に動き始めるなど、明るい兆し
持続可能な未来への歩みを加速させるとき

一方、我が国が抱える課題が浮き彫りに…

急速に進む少子高齢化や人口減少 日本国際競争力の低下

D Xの加速化 デジタルの遅れの顕在化

コミュニケーションの在り方の変化

働き方・学び方の転換

ウクライナ情勢に端を発するエネルギー問題等

激甚化する自然災害等、
安全保障が危ぶまれる状況

都が目指す姿

「未来の東京」戦略

目指す2040年代の東京の姿

ビジョン02 教育

◆ 誰もが学び、成長する機会をもつ

ビジョン06 多様性

◆ 一人ひとりが、自分らしくいきいきと活躍できる

ビジョン07 コミュニティ

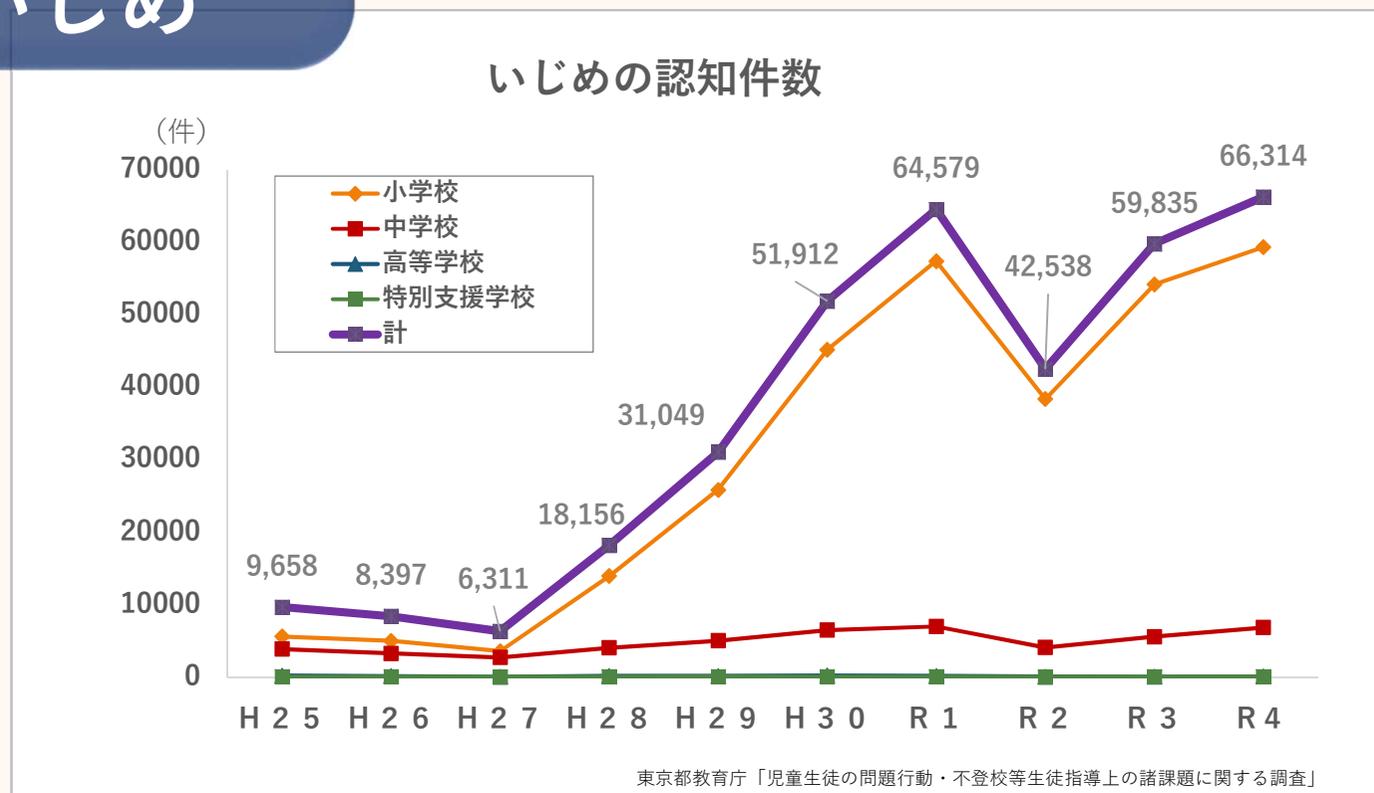
◆ 不安や悩みを抱える子供・若者等が悩みを共有し、
社会とのつながりを保っている 等



都市が発展する力の源泉である「人」への様々な支援を展開し
次世代を担う子供たちに輝く未来を継承

子供を取り巻く状況

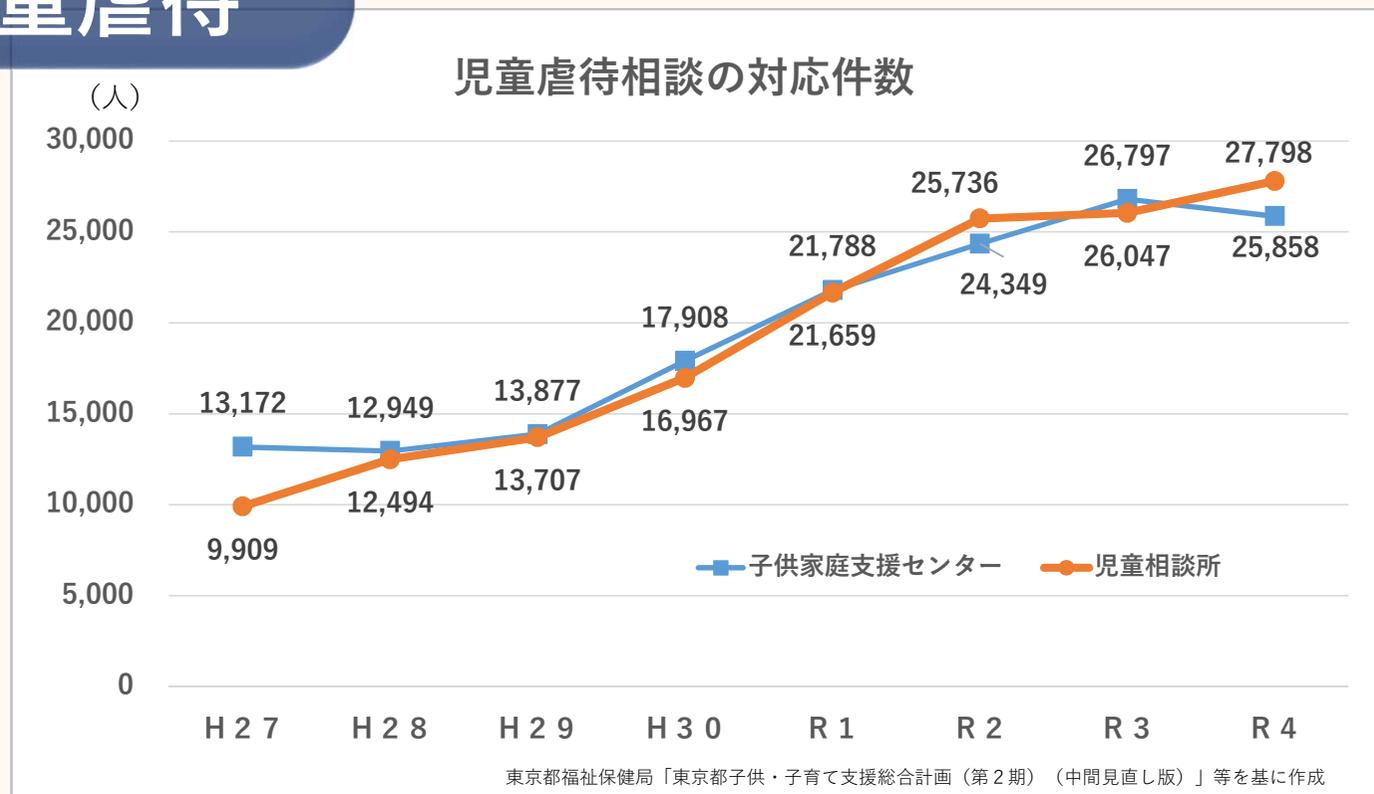
いじめ



いじめの認知件数は増加しており、態様も様々

子供を取り巻く状況

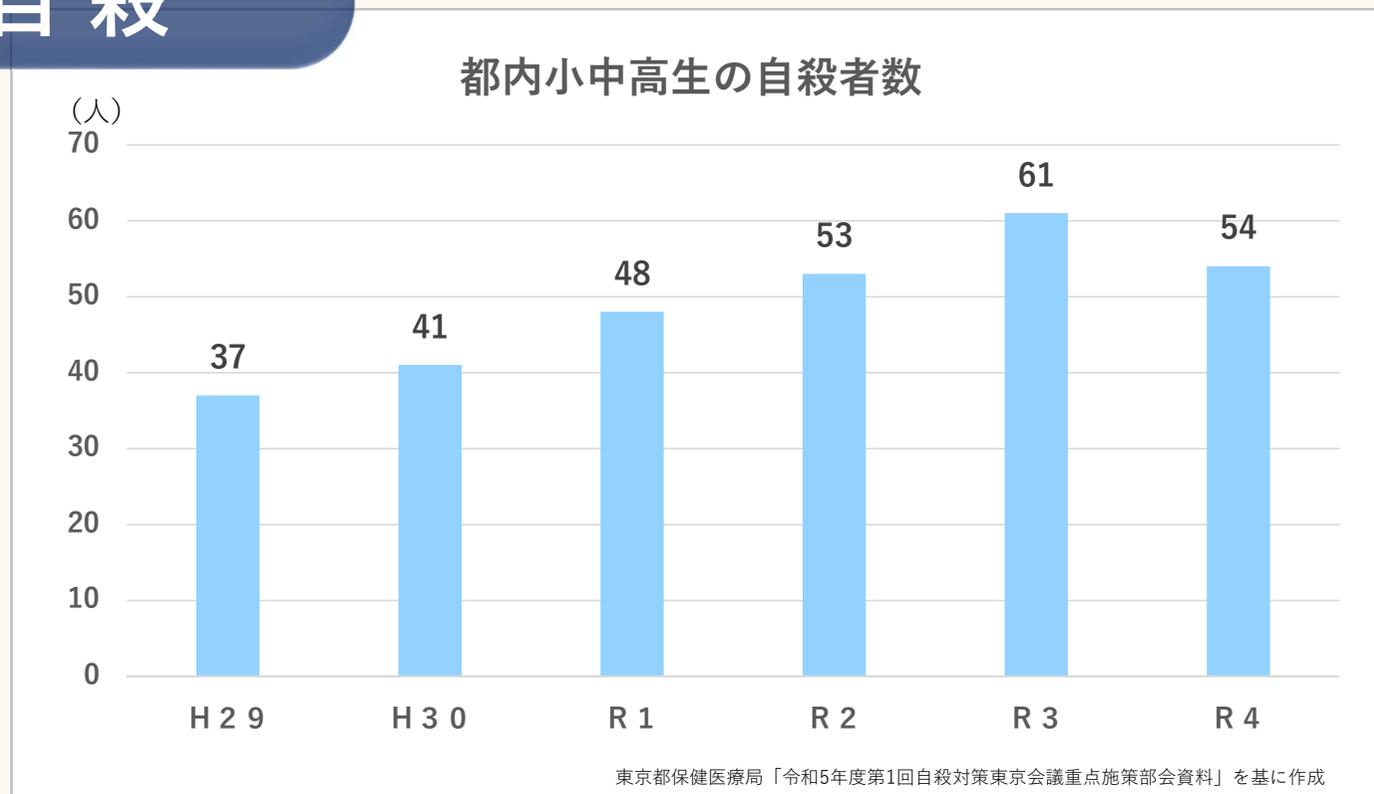
児童虐待



児童虐待相談の対応件数は、過去最多

子供を取り巻く状況

自殺



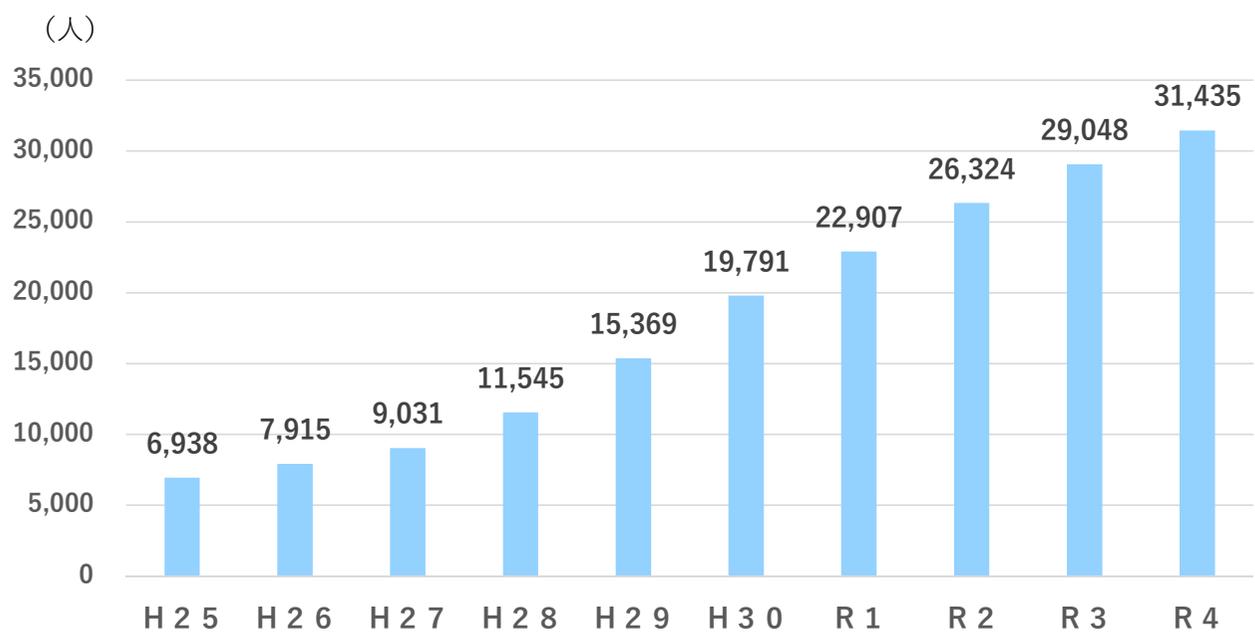
小中高生の自殺者数は、増加傾向

子供を取り巻く状況

発達障害等

※ 特別支援学級（通級・情緒障害等）を含む

特別支援教室の利用者数



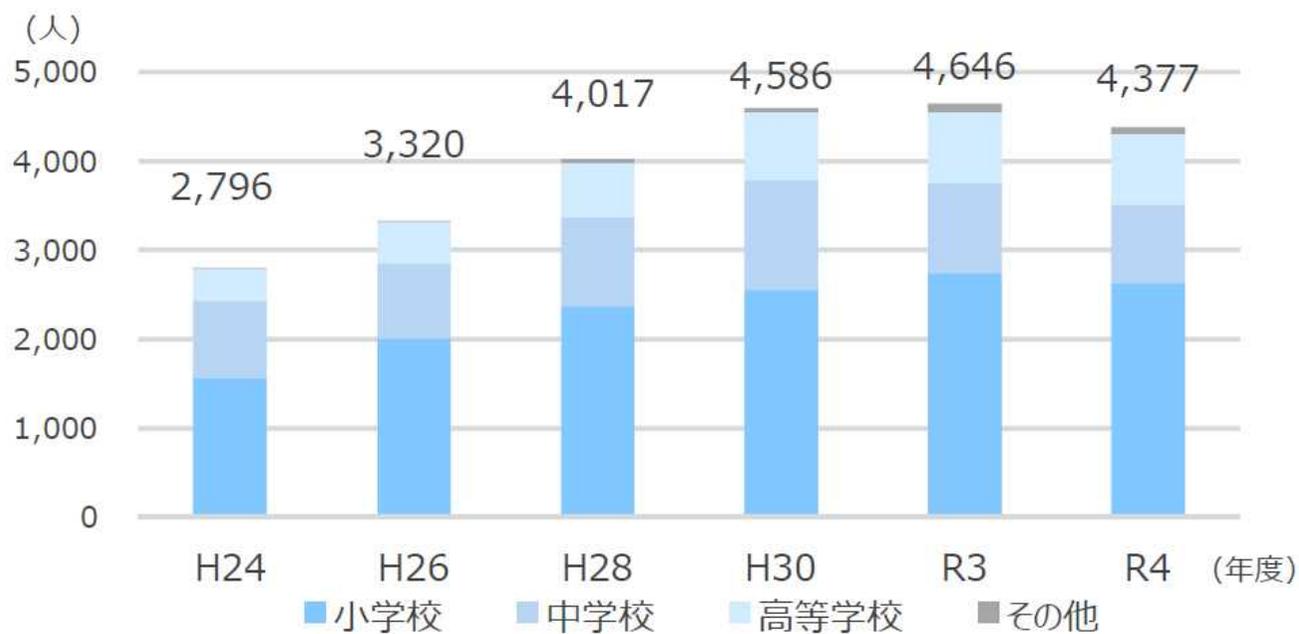
※都内区市町村立小中学校利用者数

特別支援教室の利用者は、増加傾向

子供を取り巻く状況

日本語を母語としない子供

日本語指導が必要な児童・生徒数



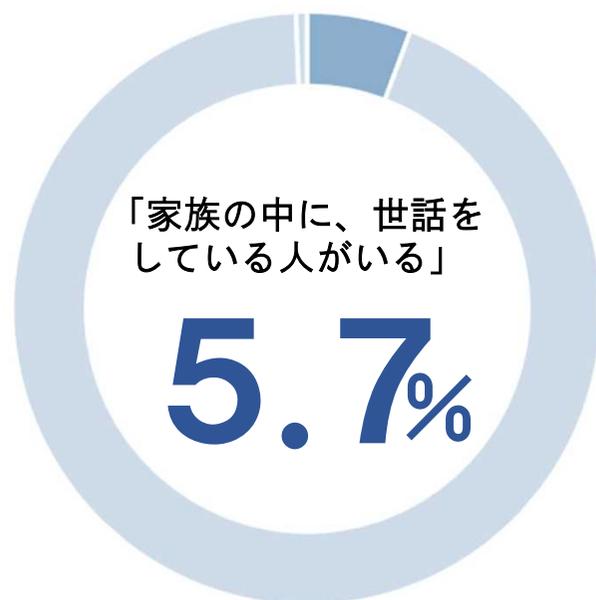
文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」及び東京都教育委員会「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況に関する調査 調査結果」（令和4年度）を基に作成

日本語指導が必要な児童・生徒が増加

子供を取り巻く状況

ヤングケアラー

世話をしている家族の有無



「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」 中学校2年生の調査結果データを基に作成

本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話を日常的に行っている子供が存在

子供を取り巻く状況

不登校

不登校児童・生徒数



東京都教育庁「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」を基に作成

不登校の小・中学生数は、過去最多

子供を取り巻く状況

不登校

◆不登校のきっかけは、対人関係によるものや身体の不調等様々

学校に行きづらくなったきっかけ

小学校	1	先生のこと
	2	身体の不調
	3	生活リズムの乱れ
中学校	1	身体の不調
	2	学力不振
	3	先生のこと

(不登校の子供が回答) ※上位3位

◆学校等と全く関わりをもてていない子供が約500人存在

不登校者数の欠席日数の分布



不登校児童生徒の実態把握に関する調査企画分析会議「不登校児童生徒の実態把握に関する調査報告書」を基に作成

東京都教育庁「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」を基に作成

子供が抱える困難等が、不登校という状況に表出しているという現状がある。

子供を取り巻く状況

不登校

◆不登校のきっかけは、対人関係によるものや身体の不調等様々

学校に行きづらくなったきっかけ

小学校	1	先生のこと
	2	身体の不調
	3	生活リズムの乱れ
中学校	1	身体の不調
	2	学力不振
	3	先生のこと

(不登校の子供が回答) ※上位3位

◆学校等と全く関わりをもてていない子供が約500人存在

不登校者数の欠席日数の分布



不登校児童生徒の実態把握に関する調査企画分析会議「不登校児童生徒の実態把握に関する調査報告書」を基に作成

東京都教育庁「例話3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」を基に作成

子供が抱える困難等が、不登校という状況に表出しているという現状がある。

学校とのつながりが全くない子供をなくし、
一人一人の状況に応じた支援を強化することが必要

子供を取り巻く状況

不登校

いじめ

児童虐待

日本語を母語と
しない子供



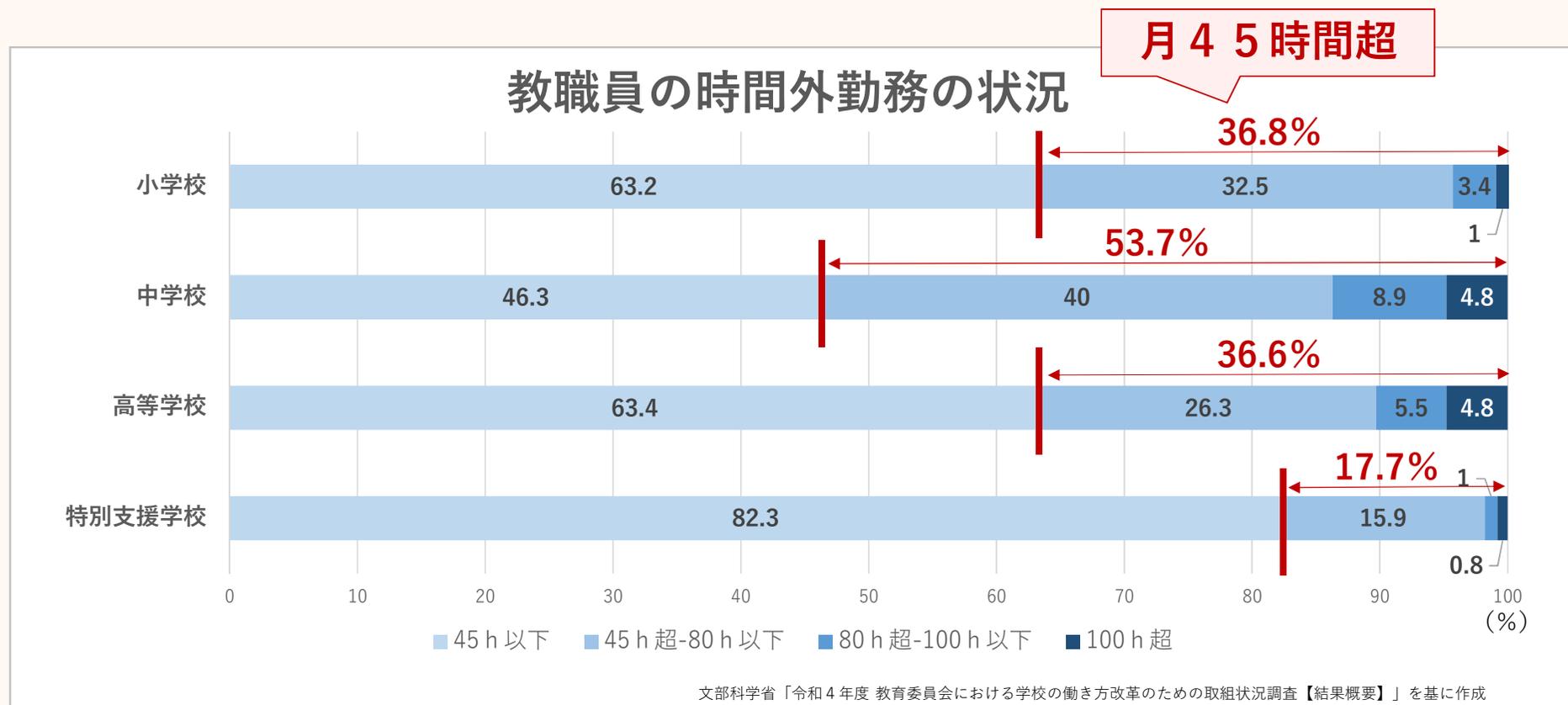
自殺

ヤングケアラー

心理や福祉等の専門家と
連携して対応する
必要がある

発達障害等

教職員の勤務の現状



子供が抱える困難等に、学校だけで対応するには限界がある。

学校と福祉等の関係機関が協働して支援する体制の充実が必要

都教育委員会の取組

学校とのつながりが全くない子供をなくし、一人一人の状況に応じた支援を強化するために

スクールソーシャルワーカー等の活用支援

- 学校だけでは解決できない問題へ福祉面から支援
- 区市町村におけるスクールソーシャルワーカーの活用を支援（都が経費1/2補助）
- 都立学校における専門性の高いユースソーシャルワーカーの増員、学校への派遣

都教育委員会の取組

学校とのつながりが全くない子供をなくし、一人一人の状況に応じた支援を強化するために

バーチャル・ラーニング・プラットフォームの提供

○仮想空間を活用した学びの場・居場所を提供

- * 不登校児童・生徒支援
- * 日本語指導

○今年度、8区市で実施

○学校生活に困難を抱える
都立高校生等も支援



都教育委員会の取組

学校とのつながりが全くない子供をなくし、一人一人の状況に応じた支援を強化するために

チャレンジスクール等の充実

- 小中学校時代に不登校経験のある生徒等を受け入れる「チャレンジスクール」、自分のライフスタイルや学習ペースに合わせて学べる「昼夜間定時制高校」等を設置
- 7校目のチャレンジスクールを令和7年4月開校予定（立川市内）



都教育委員会の取組

学校とのつながりが全くない子供をなくし、一人一人の状況に応じた支援を強化するために

関係機関等との連携

○子供政策に関わる部署、区市町村、関係機関等と連携



学校とのつながりが全くない子供をなくし、
一人一人の状況に応じた支援を強化するためには？

課題

今後の取組の方向性

人材の活用

アセスメント
の充実

ICTの活用

福祉等との
連携強化

多様な学びの
支援

居場所の創出